

第 21 回情報システム学会・研究発表大会ポスター賞選定記

森田武史、渋谷照夫

2025 年 11 月 29 日（土）・30 日（日）、第 21 回情報システム学会研究発表大会が、青山学院大学 青山キャンパスにおいて、「人間中心の社会の維持・発展を目指して～生命情報，社会情報を重視した情報システムの実現～」を大会テーマとして開催されました。その中で、最優秀ポスター賞 1 件・優秀ポスター賞 3 件が選定されました。

【おめでとうございます！受賞者の皆様】

◆最優秀ポスター賞（1 件）

P028

教育機関向けバスの運行管理・ロケーションシステム「バスなう」の開発と運用

○守屋 光晟(文教大学)、○江成 弘輝(文教大学)、

伊藤 叡一郎(公立はこだて未来大学)、川合 康央 (文教大学)

◆ 優秀ポスター賞（以下、3 件）

P023

購買情報を活用した観光地ポイ捨て抑制システムの研究

— 環境保全と地域ビジネスの両立に向けて —

○佐治 和香(青山学院大学)、宮川 裕之(青山学院大学)

P021

食文化をストーリーテリングで伝える情報システムの設計・開発

○樽見 悠人 (青山学院大学)、宮川 裕之 (青山学院大学)

P030

津波避難シミュレーションシステム

○立木 晴 (文教大学)、○芝 敏和 (文教大学)、川合 康央 (文教大学)

【賞選定のプロセス】

ポスター賞は、次の手順にて選考に至りました。

- 手順1（ポスター論文の応募、受付）：論文タイトル、発表者を記載いただき応募受付
手順2（ポスター論文の発表）：全国大会1日目の17時05分～18時35分間に15件の発表が行われました。
手順3（ポスター論文の評価）：大会参加者がポスターの前で発表者の説明を自由に聞き、対話で質疑応答や激励を実施しました。1件のポスター発表を同時に複数名の参加者が聞いている所が多くあり大変、活発で盛況でした。見聞した参加者が審査員となって、審査結果を審査用紙に記入しました。評価は、1位、2位、3位の各々で、論文タイトルと良かった点を記述しました。
手順4（各賞選定）：ポスター審査集計委員（2名）が評価用紙を回収し、研究普及委員会で決定した基準のもと集計しました。集計結果に基づき、最優秀ポスター賞（1件）と優秀ポスター賞（3件）を決定しました。

【各賞の特徴と注目された点】

◆最優秀ポスター賞は最も評価得点が高かったポスターが選ばれます。

○守屋 光晟(文教大学), ○江成 弘輝(文教大学),

伊藤 叡一郎(公立はこだて未来大学), 川合 康央(文教大学)

教育機関向けバスの運行管理・ロケーションシステム「バスなう」の開発と運用

このポスターは、以下のような多くの重要な視点で良い評価を得ている。

- 「ユーザ目線での開発やビジネス化を見据えている。」
- 「社会実装に至っている。」
- 「実用性、開発の継続性がある。」

◆優秀ポスター賞（3件）は、上位賞とは僅差で選出されています。

以下のような好評価コメントが出されている点が特徴です。

- 「社会的意義が高い。着眼点が良い。」
- 「入店後の調理待ち時間に活用できる。楽しく学習でき、多言語対応も行なっている。」
- 「システムの完成度が高い。システムをバージョンアップするときの課題もしっかり把握されている」

【ポスター賞の選定を終えて（御礼、所感と今後への展望）】

まずは応募していただいた方々に御礼申し上げます。

15件という多数の応募をいただきました。

次年度も、より多くの方々（学生や企業の方々など）からの応募を期待したいです。

ポスター論文は、研究論文と異なり、比較的応募し易い、ポイントを絞りがやすい、多くの参加者と意見交換をフランクにし易いなどのメリットが多い方式イベントと思われます。ポスター論文の意義や位置づけについても多くの可能性を感じています。

ポスター論文がキッカケでそのテーマを深堀や拡大、他テーマとの関連付けなどにより研究を進展させて成果につなげて行ける可能性があります。

例えば、今回はポスター論文で発表して、次年度は研究論文へ発展させることや、執筆者もご自身の継続から後輩（学生）への伝承、就職後の発展研究、企業内での研究や実践と連携することなどが考えられます。

テーマによっては大きな研究テーマの中で中間段階に位置づけられるサブ・テーマもあると思われます。今回の発表での質疑で頂いた意見や残された課題などを引き継いで、次年度以降でも研究を深堀や拡大されることを期待、希望致します。

また、顧客企業、自治体等との連携強化による、実際の現場への貢献、大学/学生の評価拡大につながる可能性も出てきている。（これはポスター論文だけでなく、研究論文にも言えることである。）①テーマ、連携の例：観光地の事故防止対策、海岸地区の津波、防災対策など、自治体、市町村の同テーマ担当部門様との課題、対策など情報交換から調査研究項目の役割分担決め、進捗や成果物の相互評価を実施する。・自治体側：実要件の提示、実践評価　・大学側：研究の深化、解決策アイデア提示など②期間：例えば、研究を3～5年間継続して、大学側も学生間で引き継ぐ、先生もより強く介在、指導して研究を推進する。③成果：・実践での評価や成果をメディア等で公表して、連携企業/自治体等からの研究連携をより拡大できる。・大学側も研究成果から知名度向上を図り、学生の応募、拡大等発展に繋げる。・研究に参画した学生も就職後の業務やキャリアパスに繋げて、役立てる。

審査、評価については、大会参加者方々に、定型の審査用紙を使用して審査いただきました。審査者が19名と多く協力いただいたことで、客観性の高い審査がなされたと思います。今後も参加者によるこのような審査方式を、改善（電子投票化、評価フィードバック強化など）を含めて継続して参りたいです。

「ポスター賞」は当情報システム学会の独自性、特徴の一つであり、本方式イベントの更なる改善や外部へのアピールにも取り組んで行きたいと考えます。

以上、ご報告です。

当学会の更なる発展から、情報システム関連組織、人々に貢献できるよう尽力して参ります。